O2-009

体重増加不良を主訴に来院した乳幼児の臨床的検討

落合　悟[1]、星野　英紀[1]、大石　亜美[2]、落合　千春[2]、芦川　美希[2]、三牧　正和[1]
[1]帝京大学　小児科
[2]帝京大学医学部附属病院　栄養部

【緒言】
体重増加不良（Failure to thrive: FTT）は乳幼児健診の重要なチェック項目であり、原因は多岐に渡る。FTTの要因として①染色体異常など基礎疾患に伴う児の器質的要因、②偏食、口腔機能の過敏性など児の機能的要因、③　親の育児困難、誤った知識や指導による栄養不足、双胎・同胞が多いなど養育者/社会的要因、の３つに分類される。乳児期にFTTを呈した場合、後の認知機能の遅れと相関する報告もあり、FTTに対する早期の要因分析と包括的支援は重要である。
【目的】
当科にFTTを主訴に来院した症例を検討し、要因と転帰について検討する。【方法】2019～2022年に乳幼児健診等でFTTを指摘され当科を受診した27名を対象とし、診療録から後方視的に検討した。FTTとして、1）標準体重の５パーセンタイル未満である症例、に加え2）短期間に体重増加不良が進行し成長曲線上1SD以上の下降が見られる症例、も検討に加えた。全ての症例で1年以上にわたる小児科専門医による継続的な診察に加え、管理栄養士による食事状況の聴取、評価も行われた。
【結果】
①児の器質的要因が主因である者は７名であった。基礎疾患として、West症候群、結節性硬化症、Pierre-Robin症候群、Williams症候群、先天性小腸閉鎖症、残り２名は基礎疾患不明も全般性の発達の遅れを伴っており、児の器質的要因と判断した。②児の機能的要因が主因である者は7名であった。これらの児は、全て乳首を嫌がる、または離乳食を食べない、偏食があり、養育者に育児困難感が見られた。医師および栄養士の介入により５名でFTTの改善を認めた。4名はのちに自閉スペクトラム症（ASD）と診断された。③養育者/社会的要因がFTTの主因であると考えられたのは13名であった。この群では介入により11名がFTT の改善を認めた。また、5例で②児の機能的要因と③養育者/社会的要因が併存していた。
【考察】
FTTは児の器質的疾患やASDの発見の端緒になることがある。児の神経発達症の存在は養育困難や親子間のアタッチメント形成にも影響することが指摘され、自験例でも二次的に養育困難を来たし得ることが明らかとなった。FTTに対する早期介入は栄養士を含めた多職種連携が可能な大学病院の重要な役割である。

O2-010

トランジション外来における小児慢性疾患患者に対するメンタルヘルス支援

紙屋　千絵、江崎　陽子
国立成育医療研究センター　看護部

【緒言】
日本小児科学会は2023年に移行期医療に関する提言を見直し、「医療だけでなく、若年者の心理社会的、教育的、就業関連のニーズ全般」に対する支援の必要性をより重視する内容へと進化させた。移行期医療の対象となる小児慢性疾患患者へのメンタルヘルス支援の重要性はさらに高まっている。これまで、成人移行期支援を目的とする外来におけるメンタルヘルス支援の報告は少ない。
【目的】
Aセンタートランジション外来における小児慢性疾患患者に対するメンタルヘルス支援の現状を明らかにする。本研究の成果は、今後成人移行期支援を受ける小児慢性疾患患者のメンタルヘルス支援の一助となる。
【研究方法】
トランジション外来を受診した患者の診療記録・看護記録・問診票から記載内容を抽出した。研究対象者は、2015年9月～2023年6月30日までにトランジション外来を受診した患者のうちこころのアセスメントシートが付帯した146名とし、記述統計を算出した。
【倫理的配慮】
本研究は国立成育医療研究センター倫理審査委員会の承認を得て実施した。
【結果】
研究対象者146名、年齢は11歳～43歳、診療科は神経内科が一番多く多岐にわたっていた。こころのアセスメントシートでは「よく眠れない、朝起きられない」と回答した患者が41名（28.1%）と一番多く、次いで、「学力が心配だ」37名（25.3%）、「いらいらすることがある」36名（24.7%）「自分に自信がない」35名（24.0%）の結果であった。
　看護師は、こころのアセスメントシートに関する具体的な聴き取り、学校生活や親子関係等の心理社会面に着目した面談を実施し、必要時こころの診療科医師へコンサルテーションをしていた。トランジション外来からこころの診療科につながったケースは7名（4.8%）であり、その背景は、患者自らが学校生活や就労における困難感を相談したケースなどであった。看護師はこころの診療科と連携後も支援を継続した。
【考察】
小児慢性疾患患者は、自尊感情の低下、焦燥を抱きやすい傾向があり、これは思春期の特性に重なる部分もあるため、より詳細な聴き取りが必要である。
　トランジション外来ではメンタルヘルス支援として、メンタルヘルスのスクリーニング、専門職への橋渡しの役割を求められているが、同時にメンタルヘルスの維持を支援することも重要である。

Presented by Medical*Online